

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎ苑 山形
（ユニット名）	さくら
所在地 （県・市町村名）	山形県山形市松波1-11-8
記入者名 （管理者）	紺野 和子
記入日	平成 19年 7月 19日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者が楽しい生活を送れるよう支援すると理念を作成し、取り組んでいる。	個々人が地域で暮らし易くをモットーに行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り終了時、理念を唱和し、一日一日の実践に向け取り組んでいる。	いつの間にか誰しもが理解し、実践に向けている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の浸透はこれからの課題です。	○ 通信誌や運営推進会議等を通して伝え浸透出来る様取り組む。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時、挨拶を交わしたり、庭作りをされている時、コミュニケーションをとったりと近所付き合いを心掛けている。	保育園児や近隣者(子供連れ)が当苑の犬を見に立ち寄り、又、夏祭りはのし袋まで持参され知人達と共に歌い楽しんで下さった姿あり、毎年継続して行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自施設の行事には参加して頂いてますが、地域行事には参加出来ていない。	自治会や清掃等にも参加するつもりではいるものの準会員は年会費だけでよろしいとのことわりあり。参加できるよう努めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者からボランティアをして頂き、利用者、地域の高齢者、互いの活性化が図られている。		民謡等の生演には今後声掛けし多くの人に聴いていただきたいと思っているところです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価票が職員に回覧され、全体ミーティング時に管理者の説明が行われ改善に取り組んでいる。		入居者を自分に置き換え考察することが一番わかり易いのはとの考えからグループホームのあり方を施行しているところです。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ発足したばかりである。		一度だけの会であるが防災に関しては町内会長を含め、より強力なアドバイスあり。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来の機会もなく、これと云った問題定義もなく過ごしている現状です。		運営推進会議も指示通りのことはして行くよう頑張りたいです。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を利用されている方がおり、現実的に学ぶ機会が多い。		生前にその人の喜びとすることを支援して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法は十分に理解している。現在、自施設では見られない。		虐待はあってはならないことである。今後も研修会等に参加し学習する機会を設けて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっては、家族は入居させることだけが先行しがちである為十分な理解を得るようこころがけている。		料金と入退苑の契約については十分に話し合いの上、入居いただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受容し反映している。		現在のところ不満が見られる事柄は御都合主義云っている場面が多い。 傾聴はして行かなければならない事と受けとめている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通信誌に個々の暮らしぶりを報告し、必要に応じて電話で連絡、報告、確認を徹底している。		家族遠隔地の方へは1ヶ月に1回程度は本人との電話での会話をさせていただくようつとめている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事時に家族とのコミュニケーションを図り運営に反映している。		面会時や小口現金預りのとき等は意見の有無を必ず聞くよう心がけている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や月1回の全体ミーティング等で機会があり、反映されている。		日々の流れの中での気づきや意見は真摯に受け止め運営者やスタッフに伝え更なる意見を得ている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員間の相互連携ベストである。		当苑退職者が近隣に在住、快く対応いただいている。 (例、ミーティング時はいつも見守りとして依頼している)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を第一に配慮している。		特に問題なく経過している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は確保されていると思われます。職員は働きながら互いの技術や知識を開示しレベルアップに努めている。		18年度は介護福祉士資格3名合格するも働きながらの資格取得は困難な方多い。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修会に参加しネットワーク作りに心掛けている。		交換研修や他業種の方の研修の場(損保社のリスクマネジメント等の研修)を利用している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎日30分間の休憩があり、お茶をしながら情報交換をし、ストレス軽減している。		利用者バスレク等には休みの人も参加してもらい(時間外で)共に楽しんでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	良好なる執り行いは上司にも知らせ、共に喜びとして受け、評価にも反映している。		その人や仕事を認め心を注ぎながら共に仕事に取り組んで行きたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話を良く聞き環境を整える様に努力している。		環境に慣れるまでは人員にも気配りをしスムーズに流れ方向づけをしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	安心して利用できるように傾聴し、納得して頂けるよう努めている。		入居にあたり移送に窮してた家族には迎えも可能とし安心感を得ることが出来た。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要する場合等は各グループホームの連携で紹介したりと電話番号等の探索もあり。		ショートを受け入れも可能であるが一度も受け入れなく過ぎている。勉強のためにも種々サービスに取り組んでみたい。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学び、励まされ、一緒に楽しみ過ごしています。		掃除上手や料理上手な方には率先してご協力頂き苦楽を共にしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に共感出来る馴染みを作っています。		体調不良時は付添して下さる方や食事介助に来苑され、生活振りや体調把握して下さる方もいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠な家族には時折、電話での会話を提供し支援している。		1ヶ月に1度くらいは互いに電話での声に安心感をもってもらうようサービスして行くつもりです。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や近所の方の面会も見られます。		見舞いに来て下さったかたより現在ボランティアでお菓子作りの教室を開いたり、歌を披露していただいている。定期的なお菓子の講習会していただいてもいる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう配慮し、気配りしている。		見守り後のスタッフを置き、さりげなく声かけフォローにつとめている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した方の面会を続け、その家族からの相談に応じ支援している。		病院等へ入院した場合、その流れ等を知らせ、家族の不安解消につとめている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを大切に支援している。		帰宅願望の強い方は思いにそってあげることはむずかしいことである。 1年1回程度はそのような人は空家でも訪問のサービスはしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分に理解したうえで支援している。		家族等や知人、ケアマネ等から情報を得る。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりが安心して楽しく過ごせる様、個別のケアに努めている。		傾聴に心算、その会話からの判断も現状把握としている状況である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々新しい発見に努めている。		最近のミーティングは充実しており観察の眼鋭い(意見も多数)継続して行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化強く精神科の処方必要とするときは家族に相談、予知される症状等を話し理解後、計画に結びつけている。		定期的な見直しは行われているが郵送でサインをもらう行為は淋しい限りである。家族にも積極性を持ってもらう様、話し合いをして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを含め、精神面での記録を重視し情報を共有し実践している。		身体面では実践しやすいが、精神面に於いてはレベルの差がありすぎ対応に苦慮している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共施設などの協力を得ながら支援している	ボランティアして下さる方が増え、制作したり歌を楽しんだり協力して頂いている。		絵や歌、菓子作り等、先生及びスタッフは意欲に感動したり新たな発見があったりで、その人を知るうえで貴重な時間である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	本人の生活の質の向上を図るため情報を得たり相談し、より多く希望を叶える様支援している。		権利擁護利用者や生活保護受給者を受け入れた為、更なる利用範囲等を知らなければと思っていますところ。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に包括支援センターと協力の場はなく過ごしている。		最近は若い人、身寄りのない人達の入居が見られるようになり、長期的な人達の支援の中で役所や適所に支援を求めることが多くなると予測している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接したかかりつけ医の往診が月2回あり、馴染みの関係が出来、利用者は先生の顔を見ただけで安心されている。		往診時は個々人の様子を事細かに報告し、精神面については得に対応して下さる。認知症の方にもとてもよく理解協力戴いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診時は個々人の様子を事細かに報告し、精神面においては特に対応して下さる。認知症の方にもとてもよく理解協力戴いている。		処方内容の点検依頼をなるべく少ない薬で対応して戴いている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師のため、気軽に相談でき、安心していられます。		緊急時や重度化は勿論のこと看護職の職務として24時間対応を心得て仕事に就いている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の相談員との情報交換を密にし、良い状態の環境に努めている。		契約では入院14日を超えると退苑と謳っている為、その上での治療方針をお願いしたり、入退苑をあわせている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を確認しながら、かかりつけ医の指示を仰ぎながら対応方針の共有を図っています。		重度化、終末期＝看取りと考え、現在1名介護度4の方、勉強しながら取り組んでいる方在住です。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医や管理者と十分相談し、安心して過ごせる様支援しています。		食事摂取困難、呼吸困難にあつては看取りは最初からおことわりしています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報を十分に提供しダメージを防ぐ事に努めている。		うつ病併発している方の自宅退院はケアマネージャー訪問看護事務所へ依頼した。精神科の対応は充分であつたが家族よりの虐待で特老入居となった。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自施設の理念を十分に理解し、実践に努めている。		積み重ねた年齢、職にはその重みを尊び大事な先輩諸兄であることを意識し過ごしている次第です。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションを常にとり、意思の疎通を図っています。		外食等に誘うも疲れて「いやだ！」と意思表示はっきりの方には好の食事を店より提供している。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズム、体調に合わせ本人の意思を優先に支援している。		夜間不眠で過ごした方は起床はどうしても遅く、朝食も当然遅くなるが、温かい食事を差し上げている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容院に出掛け、本人の望むおしゃれが出来る様支援している。		白髪はいつでも出来るがおしゃれ染は今しか出来ないとヘアカラーを楽しんでいる人がいる。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの得意な所を活かし、一緒に行っている。		盛付や茶碗拭きを楽しんで行っている方がいる。介添えてテーブル拭きにて満足している方々、様々である。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の飲み物、おやつを入れてある冷蔵庫があり、利用している方もおられる。		タバコは禁煙としている。 お酒は行事には欠かさず準備している。 利用者同士で酒くみかわす姿あり

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	さりげない声掛けや、夜間時の声掛けで失敗の軽減に努めている。		リハビリパンツも夏はパンツに尿とり使用と心地よさを感じていただいている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めてあり、基本的には午後の入浴、状況に応じて対応している。		自宅より入居いただいた方でも午後入浴の違和感見られず 冬には入浴剤にて香りを楽しんでもいただいている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じて安心して休息出来る。 居場所をすすめたり、見守りしたりしている。		その人の習慣や体調を大事にしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意が発揮出来るようにいろんな場面を作り支援している。		洗濯物整理、モップ掛け、農作業、絵書歌etc 変わったことでは彼岸や仏事にはお経をあげて下さる方もおられます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1ヶ月の小遣い内での買い物を見守り支援している。		旅行に於いては預り金より1000～2000円小遣いとして渡す人もいます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日光浴や散歩、ドライブ、買い物、山の畑へ、弁当開きと戸外で楽しみを提供している。	○	森林浴や自然にふれる事を大切に弁当開き等をこまやかに実行している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外食、墓参り、自宅に行ってみよう等、じゅうぶんに支援している。	○	家族と一緒に日帰り旅行を実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する事は個別に支援しているが、手紙のやり取りの支援は出来ていない。	○	手紙の支援を試みたい。 遠隔地の家族には1ヶ月に1度は電話を掛けボイスサービスに心算けている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室や談話室で、お茶を飲みながら、ゆっくり過ごせる様配慮している。		旅行参加の家族は遠方より来訪し、泊った方もいらっしゃる。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに取り組んでいます。		自社研修で更なる意識づけを行った。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間のみ鍵をかけている。		日中は介護職員見守りとしての役目を設け事故防止に取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りを重視し、日中自室で過す利用者には時折声掛けを行っている。夜間は21時、24時、3時の見廻りで安全確認を行う。		入居1ヶ月はさりげなく見守りに徹し、安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一部のみ預りを行っている方がいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを身近に置き、夜勤時等に確認出来る様になっている。		防火、防災等の再確認し、救急TEL等も落ち着いて対応出来るように復唱している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	自施設での研修は2回程行ない、他の研修にも個々に出掛けている。	○	くり返し研修出来る様にしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力して頂ける方を確保しています。	○	年1回の防火防災訓練実施(9月予定) 災害は協力者3名にも参加いただき訓練にむけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現実を報告し、家族の理解を得て、その人らしく生活出来る様工夫している。		歩行時危険のある人には歩行器用意していただき本人の安心感を得る。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師である管理者に報告し指示を仰ぎ、申し送りや伝言ノートにて情報を共有している。		介護職員も熟練し、その人の病態がよめるようになって来ている。 異変には早期対応で大事に至らぬようとりくみたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を綴じ、随時確認出来る様にしている。また変化のある時は個別に記録している。		処方変更ある時は改めて伝言ノートに記載し、あり得る副作用等最小限にとどめることにつとめている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックに基づき、個別に工夫している。身体を動かす事は一日の中にならず取り入れている。	○	センナ茶、ヨーグルト摂取、野菜摂取等個別の心掛けを行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、見守りにて実施、義歯を洗浄し支援している。		入苑当初ほとんどの方口臭あるが、当苑の毎食後の歯みがきで改善、歯科往診等も行い口腔ケアは今年の課題であった。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保には十分に気配りしています。排泄の心配から水分をとらない方には自室に運び摂って頂いている。食事摂取にはチェック表を作ったりと情報を共有している。		食事や水分摂取量少ない人には食後好物のアイスクリームで、いづらかでもカロリー、水分を補う方法をとっている人も居る。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を実施している。		集団(病院施設)生活して来た方は水虫の方多い。入居にあたりチェックし予防につとめる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前、食事準備、食事前、食器拭き時、消毒の徹底を行っている。		手洗いの励行つとめてます。食中毒はあつてはならない事であると肝にめいじて取り組んでおります。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭先に居る犬を見に来て遊んだり、自由に出入り出来る様にしている。		玄関入ったら明るい声掛け励行、心算けてます。又くつの着脱には安定感あるよう椅子を準備しております。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏になると”すだれ”を下げ季節感を取り入れている。		季節の花を活かしていただいております。(畑でいただく物多い)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々に椅子を置き、気の合った人達で会話出来る様にしている。		居室で同志でお茶をしたり話しこんだりの姿がみられます。廊下の空間はかつこうの憩いの場です。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ馴染みの物を置き、その人らしい生活をしている。時々本人が模様替えをしている利用者がいます。		家族に馴染みの品について説明するも同意はするものの聞くだけで終わりの事が多い為、更なる協力を得て行かなければならない。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚物等の処理に気配りし、朝食後に居室の確認、外気温に合わせた温度調節に気配りしている。		脱臭の為コーヒークリップを時々ドリップしたりする。オムツは新聞紙に包み使用後は即、蓋付容器に入れる。冬期のみトイレに脱臭器作動させている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではないが皆さんそれなりに注意が出てリハビリにもなっている。		階段の昇降を当苑ではリハビリとしている。車椅子はなるべく使用しないことを原則としている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札設置、居室の目印等工夫してます。		自室認識出来ない方には愛用のタオルケット(ピンク)で印象付け安心感を得ております。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	一階入り口での日なたぼっこや夕涼み、時には流しそうめんを楽しんでいます。		犬小屋は広く雨の日でも犬の太郎とふれあい出来ている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 戸外の空気に触れ、五感に刺激を与える事で気分転換やストレス発散が出来る様支援していきます。
- ・ 体調に気づかい、個々が持てる力を発揮出来る様、日々新しい発見に務め、安心して楽しい生活が出来る様に支援していきます。